

特 集：高齢化社会を迎えての骨粗鬆症の現状と対策

【巻頭言】

井 形 高 明 (徳島大学整形外科)

日比野 敏 行 (徳島県医師会)

高齢化社会の到来に伴う骨粗鬆症患者の増加が、医療関係者のみならず社会的にも注目されている。骨粗鬆症は、人類の罹患する頻度が最も高い疾患であり、日本での患者は推計で1000万人を超えるとされている。また、骨粗鬆症に伴う大腿骨頸部骨折は寝たきりの原因の第2位であり、高齢者のQOLを考える上で非常に大きな問題である。

特に、徳島県は老年人口の構成比率が20.82% (全国平均16.53%) と高齢化先進県であり、骨粗鬆症は早急に解決されなければならない課題

の1つと考え、本セッションを企画した。

本疾患は、単独領域での知識の枠内だけでは捉えられないのは明白である。したがって今回は、現在、最先端で骨粗鬆症に取り組んでいる各分野の専門家に発表していただき、骨粗鬆症の病態、診断、予防、治療につき、現状と対策を討論した。これを機会に整理された現段階の研究・診療の成果をベースとして、骨粗鬆症に対する認識が深まり、予防、治療の開発、普及がさらにすすめられ、骨粗鬆症患者の健康と福祉に一層寄与できれば幸いである。

閉経後骨粗鬆症の治療.....上 村 浩 一他
(徳島大学医学部産科婦人科学教室)

栄養学から 骨代謝に関与する食品・栄養素.....森 田 恭 子他
(徳島大学医学部病態栄養学教室)

骨粗鬆症の成因と病態.....井 上 大 輔
(徳島大学医学部第一内科学教室)

整形外科から 骨粗鬆症を基盤に発生する骨折
(徳島県における大腿骨頸部骨折の実態)森 本 訓 明他
(徳島県立中央病院整形外科)

徳島県における骨粗鬆症への取り組み.....中 川 洋 一
(徳島県保健福祉部健康増進課対策監)